京都工芸繊維大学

	ばるな　げるげい　ぺーたー
氏　　名	BARNA GERGELY PETER
学位(専攻分野)	博　士（工学）
学位記番号	博甲第 874 号
学位授与の日付	平成 30 年 3 月 26 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科　造形科学専攻
学位論文題目	The Interpretation of Japanese Architecture Through Models - Research About the 19 Century Japanese Architectural Models Preserved in European Collections （模型による日本建築の解釈　－　ヨーロッパのコレクション所蔵１９世紀の日本建築模型の研究）
審査委員	（主査）教授　清水重敦 教授　石田潤一郎 教授　西田雅嗣 講師　赤松加寿江

論文内容の要旨

本論文「The Interpretation of Japanese Architecture Through Models - Research About the 19 Century Japanese Architectural Models Preserved in European Collections」は、１９世紀に制作されヨーロッパ各地のコレクションに所蔵された日本建築模型の全貌を明らかにするとともに、特に日本政府が力を入れて作成した 1873 年のウィーン万博に出品された大名屋敷模型を詳細に調査し、建築模型に表れる情報伝達のあり方と日本建築の解釈を検討するものである。論文は序論、３章からなる本論、結論の全５章で構成され、本文は英語で執筆されている。なお本研究は、科学研究費補助金・基盤研究（A）「近代日本の博覧会における建築展示に関する研究」（研究代表者石田潤一郎）の一部として遂行したものである。

序論では、研究の目的、先行研究とそこにおける位置付け等を論じる。これまでの海外所蔵の日本建築模型の研究においては、限られた所蔵先の模型を対象に、歴史的な資料としての価値と、創作における外国人の役割が注目されてきた。対して本研究では、ヨーロッパ所蔵の日本建築模型を悉皆的に調査してその全貌を明らかにした上で、発信側である日本から見た模型製作の意図を探ることを試みる。

１章では、建築模型の分析方法を論じるとともに、日本における建築模型を概論する。情報伝達のメディアとして建築模型をとらえたとき、それは発信側、受け手側において、それぞれにコード化、脱コード化の過程があり、情報が二重にデフォルメされることとなる。この点を分析の主眼に置く。概論としては、まず日本の建築模型の歴史的変遷と特質を述べる。ここでは古代以来の模型の歴史を述べるとともに、特に江戸期における見世物文化の中での建築模型の役割について、史料を辿り新しい視点で論じている。そして１９世紀に日本建築や日本建築の模型が海外に輸出される際、主体となった人物、組織について、史料から具体的に明らかにしている。

２章では、ヨーロッパ各国に現存する日本建築模型のコレクションについて、9 ヶ所の現地調査と 4 ヶ所のウェブ公開データの収集を行い、その全貌を明らかにしている。その結果、320 点

の模型を確認し、データベース化している。海外に現存する模型は、博覧会に出品されたものは10点のみで、残りは個人収集によって所蔵されたものであること、江戸後期のものが85 点、明治初期のものが15点、明治以後のものが104 点あるということがわかった。模型の調査を踏まえて、1.一般建築模型、2.宗教建築模型、3.建築的な特徴がデフォルメされて、特別な焦点のある模型、4.建築の要素をただ背景として利用し、別の目的のある模型、5.建築の要素を引用し、単一の側面を表現する模型、6.建築技術の模型・サンプル、7.建築の形態を持っている装飾、8.建築の形態を持っている信仰物、9.ヨーロッパで作られた日本建築の模型、の 9 つに区分することができた。

３章では、ヨーロッパに現存する日本建築模型の中で最大規模かつ最も精巧な仕様で作成されているウィーン世界博物館所蔵の大名屋敷模型につき、詳細調査と分析を行っている。この模型は1873年のウィーン万国博覧会に日本政府が出品したもので､詳細な実測調査を行うとともに、構造・意匠・技法の詳細な分析を実施した。調査の結果、構造技法、細部意匠、用材に、実際の建物を細部に至るまで再現しようとする徹底したこだわりが認められた。その一方で、模型全体の形状には省略、デフォルメ等が見られ、形の正確さよりも建築物としての全体的な特性を表現しようとしていることが指摘できる。建築の形の再現よりも、建築の本質を制作者が解釈し、この模型で表現しようとしたもの、と読み解いている。また、模型制作者についても史料から詳しく分析し、新たな知見を得ている。

以上の考察の結果をまとめ、結論としている。日本には１９世紀以前にすでに模型を愛でる文化が存在しており、ヨーロッパに渡った模型群の一部はこうした模型文化を切り取った形のものであった。その一方で、日本建築の情報を伝えるべく新たに造られた模型も確認されたが、それも今日我々が認識する建築の二次的製作物としての模型というよりは、模型そのものに物としての価値が込められた、いわば小さな建築として造られたものが多く見られた。ヨーロッパではさらに、こうした情報を基に実物大の日本建築が造られることがあり、建築伝播のあり方は、当初想定したモデルよりもさらに重層的なコード化、脱コード化がなされていたことがうかがえた。

論文審査の結果の要旨

建築の国際的な伝播のあり方は、建築学にとって、あるいは国際文化論にとって、重要な課題であり続けている。建築の伝播における情報伝達のメディアには、文献、図面、写真などがあるが、中でも模型は最も具体的なメディアである上、それ自体がものとしての価値を有しており、最重要な対象といえる。欧米、特にヨーロッパ諸国には、近世から昭和戦前期までに作成された日本建築の模型が多数現存しており、日本建築の情報がいかに伝えられたか、あるいは当時の日本建築がいかに認識されていたかを知ることができる格好の素材となる。本研究は、ヨーロッパの博物館、コレクションに所蔵される日本建築の模型について、現地調査をおこないその全貌を解明するとともに、特に日本政府が力を入れて作成したウィーン万博出品の大名屋敷模型を詳細に調査し、そこに表れる情報伝統のあり方と日本建築への認識を明らかにしたものである。

論文は、１．日本における建築模型についての概論、２．ヨーロッパのコレクション所蔵の建築模型の現状調査、３．ウィーン万博出品の大名屋敷模型その他についての詳細調査、の３章からなる。１では模型概論に加え、幕末から明治期における建築模型の制作者、制作意図、そして

ヨーロッパへと模型が渡ることになった経緯を、史料を博捜して明らかにしている。明治以降の国際化、近代化の文脈のみならず、近世における見世物文化がそこには色濃く流入していたことが指摘され、幕末明治研究として高い水準を示している。

２のヨーロッパコレクション所蔵模型については、その全貌を明らかにする仕事がなされており、学術的側面、文化財保護の側面、いずれをとっても極めて重要な業績と評価された。９つの博物館における所蔵模型を現地調査しており、ヨーロッパ各言語に通じた申請者の高い語学力と、日本建築の構造・意匠・技法に通じた基礎的能力がなければ実施し得ない画期的な成果といえる。本論文で示されたものは所蔵模型の一覧であるが、基礎的なデータベースとして高い価値を持ち、今後の研究の発展を約束する成果となっている。

３では大名屋敷模型の構造・意匠・技法の詳細な分析がなされている。模型を研究対象とする既往研究が、実物の建築に対する二次的製作物としてとらえるものが多い中、申請者の分析視覚は、模型そのものを一つの建築的事物ととらえ、いわば小さな建築としてそれを価値付けるところが特筆される。大名屋敷模型は、建築の形を再現するに留まらず、構造技法、細部意匠、部材の加工や瓦の材質に至るまで実寸大の建築物の手法を再現しており、建築が持つ情報を可能な限り模型の中に詰め込んでいる。明治後期以降、模型にこのような情報を込める手法は失われていくので、この視点は建築の情報伝達のあり方に一石を投じる成果といえる。

以上のように、申請者が本論文によって明らかにした内容は、日本建築史、日本近代建築史、国際交流史それぞれの研究に資するところ大であるのはもちろんのこと、ヨーロッパに残る日本建築模型のデータベース作成及び具体例の詳細分析によって文化財保護にも大いに貢献するものである。

本論文の基礎となった論文は、査読付き論文(1)(2)(3)で、いずれも申請者が筆頭著者あるいは単著である。

(1) Barna Gergely Peter, Japanese Architectural Displays at the 1867 Paris, 1873 Vienna and 1876 Philadelphia International Exbitions, Archiv Weltmuseum Wien, No. 65, pp.20-43, 2015

(2) Barna Gergely Peter, Shimizu Shigeatsu, Ishida Jun'ichiro, Li Changwei, International Transmission of Architectural Culture with Focus on the Role of Architectural Models, International Conference on East Asian Architectural Culture in Tianjin, China, Digital Publication, 2017

(3) Barna Gergely Peter, Shimizu Shigeatsu, Ishida Jun'ichiro, Little Architecture: the Role of Early-modern Models in the International Recognition of Japanese Architecture, International Conference on East Asian Architectural Culture in Gwangju, Korea, pp.777-780, 2015